

東日本大震災復興支援プロジェクト 『東北・夢の桜街道運動』

1. 美しい多摩川フォーラムの

東北復興支援への取り組み経緯

平成23年3月11日に東北地方を襲った東日本大震災は、直接の被災地だけでなく東北各地への観光客の大幅減少をもたらした。東北全域に深刻な社会的・経済的ダメージを与えました。地域づくり団体である「美しい多摩川フォーラム（会長：細野助博）」では、直ちに地域づくり団体としてふさわしい東北復興支援方法について議論し、取りまとめました。

具体的には、観光客の激減を目の当たりにし、①東北全体に観光客が足を運んでいただけるような「交流人口増加」の仕組みが必要との認識のもと、東北が日本有数の桜の名所を多数抱える点に着目し、多摩川フォーラムの「多摩川夢の桜街道」事業の仕組みを活用する一方、②多摩川フォーラムの先輩組織である「美しい山形・最上川フォーラム」（会長：柴田洋雄）に声がけし、両フォーラムが連携して10年間復興に取り組むという枠組みが、7月までに両フォーラムで承認されました。これが東北復興支援の「東北・夢の桜街道プロジェクト」です。最上川フォーラムの顧問でもあった吉村美栄子・山形県知事の方添えもあって、東北6県を含む連携支援体制の整備も進み、震災半年後の10月1日には、「東北・夢の桜街道プロジェクト」が、東京と山形で同時に公表されました。その後、同プロジェクトが民間主導の公民連携・協働による東北復興支援運動である点に注目した国土交通省から助言もあり、同プロジェクトを一段とパワフルな運動とするべく、両フォーラムを母体に「東北・夢の桜街道推進協議会」（細野助博会長、柴田洋雄副会長、宮坂不二生事務局長、事務局：青梅信用金庫）を12月1日に創設、国からの支援も得て、官民広域連携の東北復興支援組織になりました。

2. 東北復興支援プロジェクト

『東北・夢の桜街道運動』とは

東北復興のために行政と民間が広域で連携・協働する『東北・夢の桜街道運動』は、日本人にこよなく愛され、かつ東北に広く点在する「 commons (共有資源) 」としての美しい「桜」を東北復興のシンボルに掲げ、新たに選定した「桜の札所・八十八カ所」を東北復興への祈りを捧げながら巡るとい

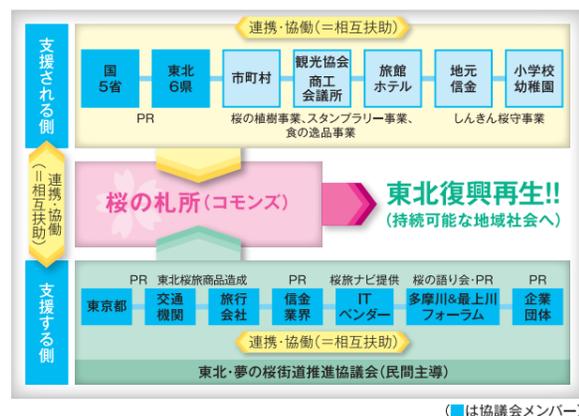
で、交流人口増加（＝観光振興）による東北復興支援運動です。毎年、事業内容が多岐に亘ってきたため、多摩川フォーラム同様、「経済」「環境」「教育文化」を運動の3本柱に据えて推進しています。現在、協議会には、国（国土交通省はじめ5省2庁）、東北6県、東京都の行政、公共交通機関、旅行会社、情報通信会社、信用金庫業界、生・損保等金融機関、民間企業・団体など64会員が参加しており、「共感」の連鎖により相互扶助の支援の輪が広がっています。



3. 東北・夢の桜街道運動の展開

（国内誘客→インバウンド誘客）

当協議会では、東北・夢の桜街道運動を国民運動として10年間推進する旨宣言し、近景（当初2年間）、中景（3～4年目）、遠景（5～10年）として大まかな事業計画を組み、PDCAサイクルで回すことにしました。特に、当初2年間は、①広報事業（公式ガイドブック発刊、公式ホームページ開設、ポスター・携帯マップ・チラシ制作、パネル展、ルーシー・ウォーカー監督の感動的な映画「津波そして桜」上映会、シンポジウム開催等）、②国内観光誘客事業（バス・鉄道・航空機を利用した旅行商品造成、桜の語り会開催、桜の札所スタンプラリー実施、桜の札所ルートガイドシステム開発等）を軸に運動を展開しました。当初は国内誘客を中心に事業展開を図りましたが、東北への観光客の回復が伸び悩みをみせたことから、3年目からは、増やせば増やしただけ経済効果が上がる訪日外国人観光客（インバウンド）誘致事業にも取り組み始めました。



政府は2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会に向け、4,000万人のインバウンド誘客目標を掲げています。当協議会でもインバウンド戦略として、大震災に際して多額の義捐金をお寄せいただいた「台湾」にターゲットを絞り、平成26年の春には、台湾の地下鉄1編成6両の車体の内外にラッピング広告を施した「東北・夢の桜街道」号を1か月間走らせる「春の訪日プロモーション事業（観光庁）」に協力したところ、桜の愛好家が多い現地で大反響を呼び、インバウンドが大幅に増加しました。



4. 東北復興支援の通年化

（『東北酒蔵街道』等の導入）

春の東北・夢の桜街道運動の各事業が成果を上げる一方、他の季節でも東北復興支援事業を展開できないかとの声が寄せられる中、平成27年10月に山形県で開催された「東北・桜サミット」で、『東北酒蔵街道』プロジェクトを発表しました。①和食がユネスコの無形文化遺産に登録されたことを踏まえ、日本の食文化として密接な関係にある「日本酒」に着目、国内でも有数の酒処である東北の「酒蔵」を、秋からの「新酒」シーズンに紅葉と温泉を満喫しながら巡る『東北酒蔵街道』を創設しました。同プロジェクト参加の100酒蔵、紅葉・温泉スポットを調査し、平成28年4月より公式ホームページや携帯マップで紹介すると共に、酒蔵巡りをサポートするスマホ版「東北桜旅・酒蔵旅の無料ナビ・アプリ」も開発しました。さらに、②東北復興支援運動に夏・冬を含めた通年化を図るべく、日本の四季の中でも特に美しい東北の四季を表現する『四季「感動」の東北往還道』（春の桜街道、夏の祭り街道、秋の酒蔵街道、冬の雪見街道）構想を「東北桜サミット」で発表しました。東北の桜、祭り、酒蔵、雪はキラキラコンテンツです。これを縦糸に、温泉、和食、紅葉、新緑、城郭、寺社、川下り、山岳、パワースポットなどの既存の伝統的な観光資源を横糸に「編み込む」と、ストーリー性のある魅力的な体験型の東北観光周遊ルート、即ち『東北往還道』が縦横に出来上がります。インバウンドが美しい東北の四季を一つでも体験すれば、他の季節も求めてリピーターになることを期待しま



した。以上が「東北・夢の桜街道運動」における「経済」軸の概要ですが、このほか、「環境」軸では、津波被災地で桜の植樹を毎年実施したほか、「教育文化」軸では、東北地区27信用金庫の殆どが、しんきん桜守制度のもと、小学校・幼稚園等と連携し、郷土愛を育む「子ども対象の桜の絵画コンクール展」を毎年開催したところ、「次代を担う子どもが地域を元気にする」として、市民や教育関係者から高いご評価をいただきました（平成29年度は318校・園、12,077名が自由応募）。

5. 今後の展望

東日本大震災発生後7年が経過する中、人々の震災に対する「記憶の風化」が進んでおりますが、東北復興という社会的かつ長期的な企業の取り組みにおいては、従来からのCSR（企業の社会的責任）という考え方だけでは、利益を追求する企業として、「支援の継続」に限界があります。このため、協議会では、新たにCSV（共通価値の創造：Creating Shared Value）という「社会的課題の解決と利益の創出を両立させる企業行動」の経営理論を取り入れ、東北復興支援運動を息長く継続します。このように、協議会では、今後も、官民広域連携・協働推進（＝相互扶助）の精神で真摯に取り組むほか、協議会をプラットフォームに、協議会メンバーがコンセプトや情報を共有して「共創」する「オープン・イノベーション」などにより、東北復興支援に多面的に寄与し、『ソーシャル・イノベーション』を目指します。

なお、平成29年7月、青梅信用金庫が東北復興支援で一定の役割を果たしたとして事務局を返上しましたが、協議会は新たに独立事務局を横浜に構え、信用金庫業界のご支援を得て、東北・夢の桜街道運動を継続して参ります。

※ 美しい多摩川フォーラム10周年記念誌（平成30年3月）に一部補筆

東北・夢の桜街道運動によるソーシャルイノベーションの展開(PDCA)

① 東北・夢の桜街道運動公表(H23/10月)

“東北・夢の桜街道”創設(23/9月)
～桜の札所・八十八カ所巡り提唱～

※ コモンズ(共有資源)である東北の美しい“桜”を活用した美しい多摩川フォーラム(19/7月設立)&美しい山形・最上川フォーラム(13/7月設立)による東北復興支援プロジェクト(10年間実施を宣言)

▼ 民主道の官民広域連携・協働組織化

東北・夢の桜街道推進協議会設立(23/12月)

コモンズによる民主道の緩やかな観光振興革命
桜の札所選定→桜の札所ネットワーク化→
交流人口増加→面的観光振興→東北復興

② 国内PR中心の当初支援事業(H24/25春)

H24春

- ポスター制作(全国信金7,000店舗掲出 1~4月)
- 公式ガイドブック発刊(全国販売 2月)
- 小冊子(6県知事掲載)、携帯マップ制作(2月)
- 桜の札所パネル展&東北物産展開催(新宿西口駅前広場 2月)
- 公式ホームページ開設(3月)
- 東北桜旅商品造成(旅行各社 4月)
- 桜の語り会・東北6県巡回公演開始(4月)

H25春

- **第1回東北復興支援シンポジウム&映画「津波そして桜」**(米アカデミー賞ノミネート)上映会開催(1月)
- **桜の札所スタンプラリー**導入(高札も制作 3月)
- 札所のぼり旗をJR最寄り駅・札所等に設置(4月)

③ 運動のトリプルボトムライン化(H25)

経済	• 桜の開花情報収集開始(26/4月) • 桜の札所・番外編20カ所追加選定(26/7月) ~桜の札所・108カ所巡り提唱~
環境	• 津波被災地での「桜の植樹会」導入(25/11月) (公財)日本花の会と
文化教育	• 子ども対象の「桜の絵画コンクール・絵画展」導入(25/4月) 東北地区27信金、富国生命と

※ 経済、環境、教育文化の3本柱は地域経済活性化のための3基軸(トリプルボトムライン)

④ 復興支援スキームの飛躍的発展

① インバウンド施策導入(H26/27春)

H26春

- 台湾の地下鉄車体ラッピング広告等協力(26/2~3月) 観光庁、JNTOと
- 成田国際空港での巨大パネル展協力(26/3月) 東北運輸局、東北観光推進機構と

H27春

- 台湾の日本博での観光庁ブース出展協力(27/4月) 観光庁、JNTOと
- ミラノ万博・日本館での桜の映像出展協力(27/5~10月) 農水省と

※ 国内旅行需要は中期的にはゼロサムの世界 → インバウンド需要は増加した分だけ成長に寄与
【定住人口1人年間消費額は外国人旅行者8人の旅行消費額に相当】

⑦ インバウンド施策拡大(H30)

- 『四季感動の東北往還道』施策に基づき、通年でインバウンド需要拡大を図るため、「東北・夢の桜街道」英語版HP制作予定
- SNS広報導入予定
- **第4回東北復興支援シンポジウム&映画「津波そして桜」**上映会開催予定(2月)

⑥ “東北往還道”創設(H29/3月)

- **第3回東北復興支援シンポジウム&映画「津波そして桜」**上映会開催 復興庁と
- 「東北酒蔵街道」に20蔵追加参加(100蔵体制)
- 夏の**東北祭り街道**(50カ所)、冬の**東北雪見街道**(30カ所)創設、『四季感動の東北往還道』完成
- 「東北往還道」公式HP実装、携帯マップ制作

※ 東北・夢の桜街道運動の年間を通じた東北復興(=観光振興)の「**社会的な価値共創プラットフォーム**」が完成

⑤ “東北酒蔵街道”創設(H27/10月)

- 東北桜サミット(27/10月 山形県で開催)において、**第2回東北復興支援シンポジウム&映画「津波そして桜」**上映会開催
- “東北酒蔵街道”創設(80蔵参加)発表 東北経産局と
- 『四季感動の東北往還道』構想発表
- 東北酒蔵街道のパッケージ商品全国販売(28/1月)
- 東北酒蔵街道&東北・夢の桜街道マップ制作(28/3月)

※ 東北復興支援の通年化を図るため、秋からの**新酒シーズンに紅葉の名所・名湯(各49カ所)**を絡めて巡る「東北酒蔵街道」を創設

② CSRからCSVへの新展開(H26春)

- スタンプラリー事業を一部外生化(26/3月)
- “**食の逸品制度**”導入&公式HP実装(26/4月)
- CSVに基づく「東北酒蔵街道」の検討着手(26/7月)

※ 東北復興という社会的・長期的支援活動は、CSRでは限界。社会的課題解決と利益創出を両立させる**CSV(価値共創)**の考え方を導入

⑧ 今後の展望

- 東北・夢の桜街道運動の総仕上げとして2020年東京五輪に向け、**デジタルマーケティング**によりインバウンド需要を拡大し、東北復興創生に貢献
- 同時に**東北・夢の桜街道**の仕組みを全国展開し、「**日本夢の桜街道**」を創設する方針【成長戦略】

▼ 日本酒蔵ツーリズム推進運動に発展(H29)

- 「東北酒蔵街道」をベースに全国的に拡大した推進組織として「**日本酒蔵ツーリズム推進協議会**」(事務局:日本観光振興協会)設立協力(H29/6月)

▽ ICT活用戦略拡大(H28春)

- 酒蔵街道アイデアソン実施(28/2月) 富士通等と
- 「東北酒蔵街道」を桜街道のHP実装(28/3月)
- 「**スマホ版東北桜旅・酒蔵旅ナビアプリ**」無償開発(28/3月) 富士通等と

③ ICT活用戦略導入(H26春)

- 「**パソコン版東北桜旅ナビシステム**」無償開発(26/4月) 富士通と
- 桜街道アイデアソン&ハッカソン実施(26/4月) 富士通等と

※ ICTを活用した東北誘客ツール開発